

かわらミュージアムの概要

かわらミュージアムは、平成7(1995)に近江八幡市が、地場産業である八幡瓦の技術や知恵を後世に伝え、町づくり拠点として活かしていく為に建設されました。

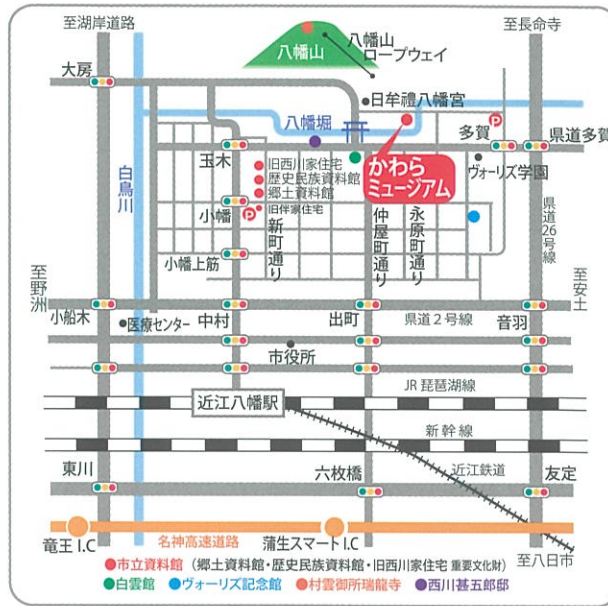
瓦と八幡を考えると、開祖豊臣秀次が築城した八幡山城を抜きには語れません。八幡山城を築城した際、堀割が作られこれを利用して、瓦の製造も栄えました。当館では八幡山城跡や豊臣秀次公居館跡より出土した金箔瓦や軒丸瓦などを展示しています。江戸時代に八幡瓦で葺かれた屋根は市域だけでなく、他所にも多く見られます。鬼瓦や瓦人形からは、当時の職人の技術、芸術性の高さをご覧ください。

また、かわらミュージアムは建物に特徴があり、瓦で屋根を葺き、屋根のつながりがまちの景観を形成してきた、という視点で「かわら」をとらえ、建物自体が具体的な表現となっています。瓦の魅力を随所に生かした建物は、このもの自体が展示の主体というべき存在感をもっています。

近江八幡は「瓦」のまちです。瓦屋根の町並みが今に残り、まちの景観的な個性、魅力をつくりだしています。建物の材質は、古い町なみと同質感を持たせるよう配慮されており、アルミ・鋼材などにおいても素材の持つ「美」を最大限に演出しています。また「伝統的建造物群保存地区」の瓦工場跡に建てられた施設であることから八幡堀など周辺の景観と調和させています。

このかわらミュージアムに葺かれた八幡瓦は、昔ながらの手作りの味わいをあえて取り戻すために、また、八幡堀沿いの古い蔵に葺かれた瓦屋根の修景に自然に溶け込むように、瓦一枚一枚、手間をかけて色むらをつけています。

春夏秋冬が感じられる草花が漂い、おとぎ話の主人公が瓦屋根の上から出迎えます。それぞれが宝探しのように、あなた自身で楽しさを発見できるかわらミュージアムです。



電車をご利用の場合 JR 東海道線(琵琶湖線)「近江八幡」駅下車
近江鉄道バス「大杉町」バス停 下車 徒歩3分

車で越しの場合 名神高速道路「竜王 I.C」より約 30 分
国道 8 号線「友定」交差点より約 15 分

かわらミュージアム

滋賀県近江八幡市多賀町 738 番地の 2
TEL (0748) 33-8567 FAX (0748) 33-8722

指定管理者 株式会社かんでんジョイナス

【開館時間】 9:00～17:00 (入館は 16:30 まで)

【入館料】 一般 300 円、小・中学生 200 円
(団体料金は 10 名様以上で、各々 50 円引き)

【休館日】 月曜日・祝祭日の翌日・年末年始
(なお、5・6 月と 10・11 月は無休)

かわらミュージアム



A MUSEUM OF TILES ART.

常設展示室

近江八幡の歴史・風土、八幡堀と八幡瓦の伝統および伝建地区の町なみの魅力を紹介する空間をメインとして、さらに視野を広げて日本及び世界各地の瓦、瓦屋根の連なる町なみ景観の多様性などを実物や写真などで紹介しています。

伝統工芸としてこれまで、多くの瓦生産がされてきました。八幡瓦の手法が見られます。



1F 常設展示室 1

建物の概要

敷地面積：2,853 m²
 建築面積：1,195 m²
 延床面積：1,467 m²
 構造：木造二階建一部鉄骨造
 開館：平成7年8月



だるま窯



八幡堀あかり展

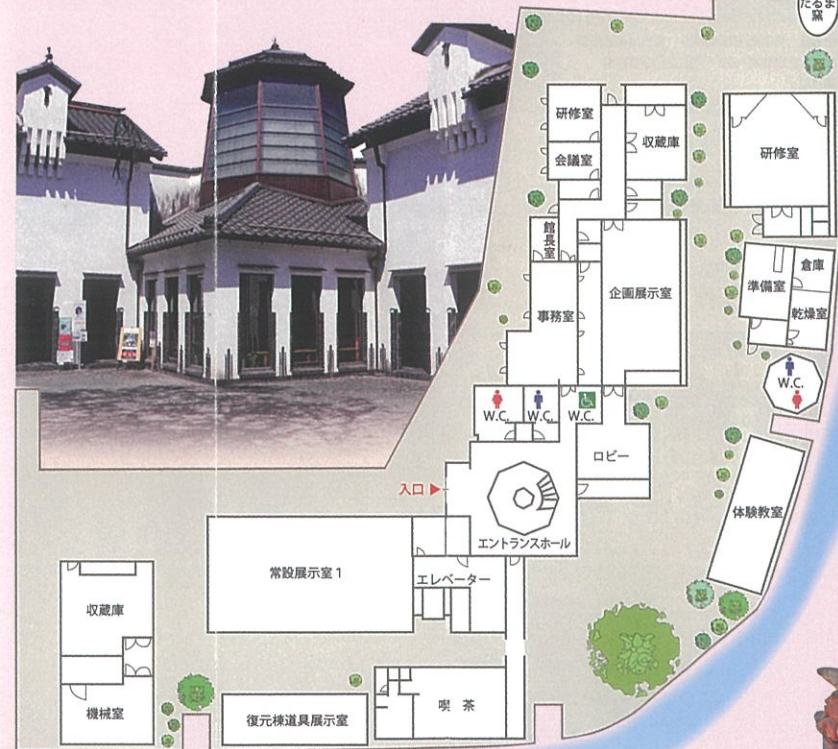
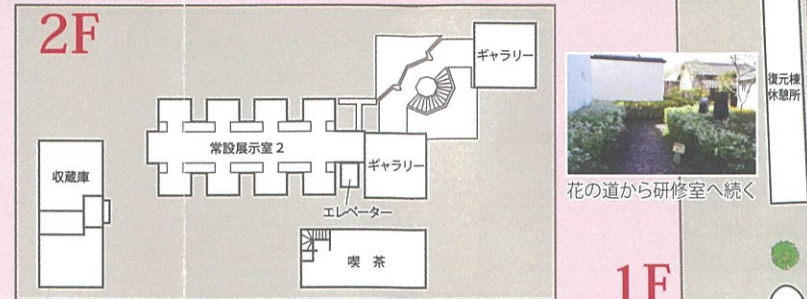


2F 常設展示室 2



正面入口

建物全体が、展示物ともいえる 10 棟からなる瓦づくりの建物です。24,000 枚の屋根瓦を、周囲の町なみの景観に合わせるため、新品の瓦の表面のいぶしを、ていねいに金ブラシで削り落として古く見せています。



研修室



企画展示室

会議や講演会等に活用できる研修室や、作家展や発表会等に利用できる企画展示室、瓦づくりが出来る体験工房もあります。



体験教室

かわらミュージアムは、春夏秋冬、晴れの日には晴れの日的美しさ、雨の日には雨の日的美しさを体感していただける施設です。ミュージアム内にあるしかけや物語は、訪れる人々を「静」の空間、癒しへと導きます。

八幡堀

